

全林研会長賞

長崎県

## 佐世保林業研究会

所在地 &gt; 長崎県佐世保市

設立 &gt; 平成52年2月

会員 &gt; 男5人

年齢 &gt; 37歳～73歳 平均57歳

### 主なプロジェクト

- ◆一般の人に対する森林・林業のPR

#### 1. 地域の概要

佐世保市は長崎県内では長崎市に次いで二番目に多い人口を擁し、県庁所在地ではない「非県都」としては比較的大きな規模を持つ都市です。かつて旧海軍三軍港（横須賀・呉・佐世保）の一つとして鎮守府が置かれ、現代でも自衛隊や在日米軍の基地として伝統を受け継ぐ、造船および国防の町として知られています。

また、日本有数のテーマパークであるハウステンボス、リアス式海岸と200余りの島からなる九十九島を含め、大小400の島からなる西海国立公園や牡蠣をはじめとする海の幸、日本で最初に生まれたハンバーガーと言われるご当地グルメの佐世保バーガーなどに代表される観光都市です。

現在の佐世保市は、平成17～22年に1市6町が合併していますが、当研究会は主に旧佐世保市内で活動しています。旧佐世保市の民有林面積は、1万748ha、うち人工林は3,646haです。

#### 2. 佐世保林業研究会について

佐世保林業研究会は、昭和62年に佐世保市森林組合の作業班を中心に、林業に携わる者同士の相互研鑽と県北地域の林業振興のために設立しました。現在は農業、林業、建築業の職種からなる5名で活動しています。

平成13年度ごろまで、シキミやハランの植付け、様々なきのご類の栽培、

炭焼きなど、特用林産物の生産、木工製品の制作・販売など幅広く活動してきました。平成16年度からは県内の林業研究グループと共同で「森林のめぐみ展示会」というイベントを実施しており、都市部の人たちに森林の持つ素晴らしさを知ってもらう活動を行っています。

また、夏休みに開催する木工教室には多くの親子が訪れ、子供たちへ木工の楽しさや木の持つ温もり・素晴らしさを教えています。

### 3. 木工教室

今の時代は昔に比べ、親子で木工や工作をする機会が減っている傾向にあり、いざやろうと思ってもDIYが趣味の家庭でもないと、材料・道具の調達、作業場所の確保、指導が難しいようです。

そこで、当会が主催すれば気軽に普通の家庭でも木工を楽しんでもらい、木の温もりを感じてもらえるのではないかと思っていました。

そうしたところ、佐世保市の公園施設より「夏休みに施設で何かイベントをやれませんか？」と打診があり、「やろう！」という運びになりました。

開催場所が確保できたので次は材料の調達です。「佐世保の間伐材を利用して本棚や椅子を作ろう」をテーマとすることとし、佐世保市森林組合にお願いして、切り捨てていた間伐材を分けてもらい、会員の仕事の合間に間伐の現場へ出向き集材し、自分たちで1.5m<sup>3</sup>ほど製材しました。

また、それでも足りないと考え、材木店に連絡を取ってプレカット工場から端材を譲ってもらい、合計で2.5m<sup>3</sup>程度の木材を準備することができました。

さらに、木だけではなく昔からの子供遊び道具である竹馬などを作れるようにと竹も用意しました。



親子ではじめてのノコギリ

開催当日は好天に恵まれ、当初考えていた以上の参加があり、開始前から、用意したテントに入りきれないほどの親子連れに来てもらいました。用意していた木材もあっという間になくなり、追加で木材を取

りにいったほどです。

参加者からの「板を何cm切ってくださいーい」「こんなを作りたいんですけど、材料はどんなのを選んだらいいですか?」との要望や質問に、会員もバツバツで昼食もとれず、猫の手も借りたいほどの忙しさでした。

最終的には200人ほどの参加となりました。

参加理由については

- ・小学校に配布したチラシを見て
- ・施設を利用しに来た時にたまたまやっていた
- ・知人・友達に聞いて・誘われて

など様々で、佐世保市内の複数の小学校からも広く参加がありました。

私たちが最初、木の良さを知ってもらいたいと考えていた子供たちも一生懸命に作っていましたが、子供たちに負けちゃいられないといわんばかりに熱心に作業に没頭している父兄もいて微笑ましかったです。

参加者の感想としては次のようなものがありました。

〈親〉

- ・やっぱり自分で作った木工品は満足感がある。大切に使いたいと思う。
- ・子供たちに木工をさせようと思っても、自分たちではどうしてよいかわからないので、このようなイベントはありがたい。
- ・来年もこのようなイベントがあれば、また親子で参加したい。

〈子供〉

- ・ノコギリで木を切ったりトンカチで釘を打ったりするのは難しかったけど、物を作るのって楽しい。
- ・作っているときに木のおいがした。

当林業研究会の活動を通して、少しでも地域の皆さんに自然の温もり・大切さや自分で物を作る楽しさを伝えられたのではないかと思います。



木工教室

#### 4. 森林のめぐみ展示会

この活動以外にも、都市の人たちに森林の持つ素晴らしさを知ってもらおうと、平成16年度から県内の林業研究グループと共同で「森林のめぐみ展示会」というイベントを実施しています。

このイベントは年に1度、長崎市の浜の町アーケード商店街に場所を借り、県内の林業研究会が行っている活動を紹介したり、生産・製作している商品を販売し、林業研究会だけでなく、林業や山のことを知ってもらおうということを目的に開催しています。

当会では会員が間伐したスギやヒノキ、ケヤキ、クスなどを製材し、飾り棚、長椅子、机、鳥の巣箱などの木製品を制作、販売しています。これらの木製品は大変好評で売り切れになる商品もあります。

毎年、当会の木製品を楽しみにしている方もおり、活動に対するやりがいを感じます。鳥の巣箱は実際に野鳥が巣立った後に取り外した物を展示していたのですが、野鳥がどのように巣をかけているのかを見る機会はなかなかないので、興味深く見学したり写真を撮っていく方が多かったです。

また、県内の林業研究会との交流と情報交換ができる貴重な機会でもあります。

今後、後継者となる若い会員、林業と関係ない業種の会員を増やし、会の刺激になってもらいたいと考えています。昨今のライフスタイルや習慣の変化により新規会員の獲得が難しいですが、今後も森林や木の温もり、良さを知ってもらえるよう、活動を続けていきたいと思ひます。



木製品を通して話が弾む



県内の林業研究グループが集合